

# フラッシュ

JA青森



## 稲わらパトロール 有効活用呼びかけ (9/13)

青森市浪岡地区で、「令和5年度稲わらの焼却防止及び有効利用推進パトロール」が行われ、県や市の農業担当者やJA役員らが参加した。

パトロールでは、焼却防止の放送を流しながら農地を巡回。作業中の生産者に啓発用のチラシを配布した。2022年度に東青地域でわら焼きが確認されたのは約11%。水稻作付面積の0.2%まで減少している。



JAごしょつがる

**リンゴ基準説明 例年より入庫早く(9/19・20)**  
 JAごしょつがるりんご野菜課は、管内14カ所でリンゴ中生種の規格基準説明会を開いた。参加した生産者らは、提示されたサンプルの前に、選果のための着色や傷、形状などを入念に確かめた。  
 2023年は夏から9月上旬にかけて好天が多く、夜温も高い日が続いたことから、着色が遅れているものの、熟度は進んでいる。

## 取組み継続、農福連携 (8/28~)

県のチャレンジ農福の一環で、JA相馬村管内の園地に就労継続支援B型事業所「チョコわっとく」の利用者5~6人が訪れ、リンゴの葉摘み作業を行った。その後も同取組みは継続している。

初日には「来年の花芽を守るため、葉をとる時に株元を折らないように」と説明があり、利用者らは暑い日差しをのなか、集中して作業に取り組んだ。

JAつがるにしきた



## 好スタート全量1等「青天の霹靂」初検査 (9/11)

JAつがるにしきたは、津軽中央共同倉庫で2023年産米の初検査を行い、倉光弘昭つがる市長はじめ、関係者ら約50人が見守る中、全量1等に格付けされ好スタートを切った。

この日検査したのは8日に収穫し、乾燥調製した「青天の霹靂」36俵(1俵60kg)。JAの農産物検査員が胴割れや被害粒の有無などを厳正に検査した。

JAつがる弘前



## 2023年産早生リンゴ初売り (9/1)

JAつがる弘前が出荷した2023年産早生リンゴ、サンつがるの初売りが、東京・大田市場の東京青果と、大阪市場の大果大阪青果で行われた。

東京に270俵(1俵10kg)、大阪に466俵(1俵10kg)出荷し、「特選」の最高値が、32玉入りで東京は1俵20万円、大阪は同30万円。平均で東京が1俵6622円、大阪が同6740円と高値のスタートを切った。

JA相馬村





JA津軽みらい

**出荷基準を確認し適期収穫(9/15)**  
 JA津軽みらいぶどう部会は、尾上青果センターで2023年産のスチューベンとシャインマスカットの山選果基準会を開いた。部会員7人が参加し、収穫や出荷規格を確認した。収穫は9月中旬から10月上旬にピークを迎え、10月下旬まで行われる。24社の市場へ12月下旬まで1万6000㍻(1㍻2㍻)の出荷を計画する。



JAゆうき青森

**2023年産米初検査 全量1等(9/19)**

JAゆうき青森は、同JA米7号倉庫で2023年産米の初検査を行った。検査した5袋(1袋30㍻)の「まっしぐら」全量が1等の格付けとなった。

初検査では、東北町の生産者が入庫した玄米をJA職員の農産物検査員が紙袋から抽出して検査した。猛暑の影響で整粒の比率が低いことから、例年に比べて1等米比率は低い状況となっている。



JA十和田おいらせ

**青森県共で快挙(9/2)**

県家畜市場で、「2023年度青森県肉用牛共進会」が開かれ、JA十和田おいらせ所属で初出品の若手後継者5人が2区から6区のチャンピオン賞を独占し団体優勝する快挙を成し遂げた。

JAと十和田市黒毛和種改良組合は年4回の品評会を実施しており、徹底した飼育管理による品質の底上げが実を結んだ。



JAおいらせ

**三沢小2年生がJAの仕事学ぶ(9/22)**  
 三沢市立三沢小学校2年生児童6人が、JAおいらせ本店を校外学習で訪れた。JA職員が仕事内容や役割を説明し、本店事務所の各課を案内した。児童らは「JAおいらせがいつできたのか」や「どんなことを思いながら働いているのか」など各々考えてきた質問をし、真剣にメモを取りながらJAの事業について理解を深めた。



JA八戸

**連携活動 人材確保へ事業PR(9/13)**

JA八戸と県立名久井農業高校生物生産科2年生28人は、連携活動を実施した。生徒は施設見学やJAの事業紹介の他、新人職員との意見交換などで地域農業とJA事業への理解を深めた。

事業PRの場を設け、多くの就職希望者を募りたいJA側と農業に携わる学校としてJAの役割を理解し、就職先の選択肢を広げたい学校側の想いが合致し実現した。

## 県産米無償提供にかかる贈呈

JAグループ青森と県農協農政対策委員会は9月24日、青森市内の特別養護老人ホーム正寿園で行われた「こども宅食おすそわけ便」にて県産米「まっしぐら」を約200kgを贈呈した。

県産米の無償提供は、子育て世帯や生活に困りごとを抱える方を食で支援するため2021年度から実施し、今年で3年目を迎える。

本年度は県社会福祉協議会を通じて県産米「まっしぐら」9tを「こども宅食おすそわけ便」を運営する53団体、こども食堂や生活困窮者等の支援を行う68団体、社会福祉法人120法人に贈呈する。

同委員会の小山主税常任委員は「おいしい県産米を食べて元気に生活してほしい、これをきっかけに県産農畜産物への理解を深めてもらいたい」と語った。



▲贈呈の様子

## 若手営農指導員による営農指導事業 meeting

JA青森中央会は9月14日、県農協会館で第2回営農指導員による営農指導事業 meeting を開き、県内JA入組2年～7年の若手営農担当者ら13人が参加した。

この研修は若手営農担当者ならではの現場経験



▲意見交換をする参加者

から生じた疑問や課題を共有し、解決策までを見つけていくことが目的。今年度からの新たな取組みで、前回7月に続き、2回目の開催となる。

今回は前回の振り返りの他、グループワークを通じて営農指導の業務と内容を深掘りし、地域マネジメントや情報提供などの計10区分に分類。その後、強化すべき点や改善点を考え、最後にグループ発表を通じて参加者らが共有した。

## 「予防」と「共生」のまちづくりへ 認知症サポーター養成講座

JA青森中央会は9月13日、県農協会館で「認知症サポーター養成講座」を開き、JAバンク青森、JA全農あおもり、JA共済連青森、JA青森中央会の職員ら22人が参加した。

当講座は認知症への理解を深め、また持続可能な社会を実現するために、地域連携を強化し「高齢者等地域見守り活動」へとつなげていくことが目的。第27回JA青森県大会で決議された「地域活性化への貢献力発揮」の中で掲げた高齢者支援対策の一環で、2017年度より実施し、今年で7年目を迎える。

参加者らは「認知症は、周囲の不適切な対応によって悪化することがわかり、よりサポートの重要性を感じた」と話した。



▲グループワークをする参加者

## 「持続可能な町」を考える 中学生がJA青森中央会を訪問

青森市立古川中学校3年生5人は9月7日、総合的な学習の授業で、JA青森中央会を訪問した。

同校3年生は、総合的な学習として「古川RE

BORNプロジェクト」をテーマに掲げ、古川地区を「持続可能な町」にするための仮想の提案を考える学習を行っている。参加した5人は「ゴミを出さないファーマーズマーケット」を提案し、今回の訪問に至った。

学生らは、ファーマーズマーケットの利点や、販売のコツなどのメモを取りながら、ポイントを学んだ。



▲真剣に話を聞く生徒ら

### 農産物を通じたマーケティング教育 学生による直売実習

県営農大学校の学生ら約15人は9月1日、道の駅しちのへ内に「ダイちゃんの店」を開き、新鮮なナスやトマト、ブドウなどを販売した。

この催しは、接客や販売手法など、マーケティングの基礎知識を習得することを目的としており、2011年からスタートし、今年で13年目となる。当日は開店前から長い列ができる盛況ぶり、開店と同時に多くの人々が新鮮な農産物を手に取った。

学生代表で同校農畜産物販売委員会の赤石真一郎さんは「旬の野菜や果物を準備しているので、ぜひ足を運んでほしい」と笑顔で話した。また、同校農産園芸課の井澤拓哉主査は「新規就農や農



▲学生たちが育てた野菜を手取る買い物客

業後継者を目指す学生たちが販売している。授業の一環として行っているが、将来の農業を引っ張る若者たちが七戸町で頑張っていることもPRしていきたい」と話した。

「ダイちゃんの店」は、営大（エイダイ）の愛称にちなんで名付けられたもので、2023年度は全5回を予定している。

### 行事 (10/10~11/10)

#### 10月

- 11~12日 内部監査士検定試験準備研修会 (県農協会館)
- 13日 一次査定部署検証者向け研修 資産査定担当部課長会議 (県農協会館)
- 13日 J A 教育担当部課長会議 (県農協会館)
- 13日 県 J A 協議会 J A 常勤役員・幹部職員研修会 (アップルパレス青森)
- 17日 総務担当常勤理事会議 (ホテル青森)
- 21日 認証初級試験 (県農協会館)
- 24日 生活指導員連絡協議会第2回研修会 (県農協会館)
- 24日 令和5年度第2回農業者年金担当者会議・業務研修会 (県火災共済会館)
- 26~27日 農業税務実務講座 (県農協会館)
- 26日 第2回日本農業新聞通信員会議・研修会 (県農協会館)
- 26日 第2回 J A 広報担当部課長および担当者合同会議 (県農協会館)
- 26日 若手営農指導員 meeting (第3回) (県農協会館)

#### 11月

- 1日 生活指導員連絡協議会県外視察研修 (北海道函館市)
- 1日 県女性協第5回定例理事会 (県農協会館)
- 2日 男女共同参画型リーダー育成研修会 (県農協会館)
- 7~9日 認証営農指導員準備研修会 (県農協会館)
- 9日 内部監査・リスク管理担当部課長会議 (ホテル青森)

「国産」を選ぶあなたは  
食の未来を考えている人。

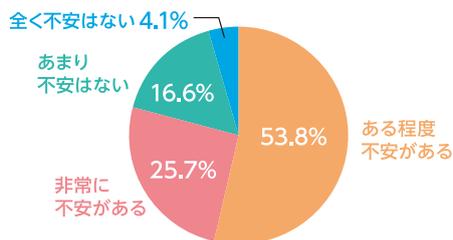
ウクライナ情勢が長期化するなど世界情勢が不安定ななか、**将来の食料輸入**について、どう考えますか。先進国のなかで最低水準の、およそ6割を輸入に頼っている日本。回答者の約8割が「不安がある」と回答した調査結果も

あります。また、「国産」を選ぶ理由として、「安心・安全」「おいしい」のほか、「日本の生産者を応援したい」を選ぶ方も。**子どもたちの未来の食卓のために、「国産」を選んでみませんか。**



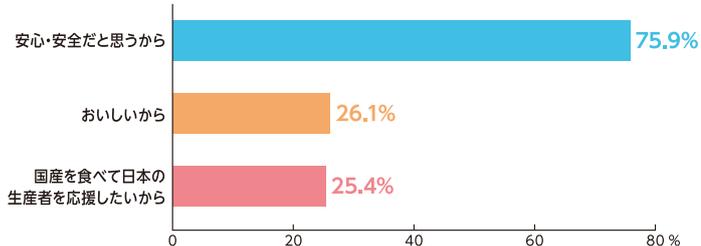
JAグループサポーター  
林 修

将来の食料輸入についての考え



日本政策金融公庫・消費者動向調査(令和5年1月)よりJA全中作成

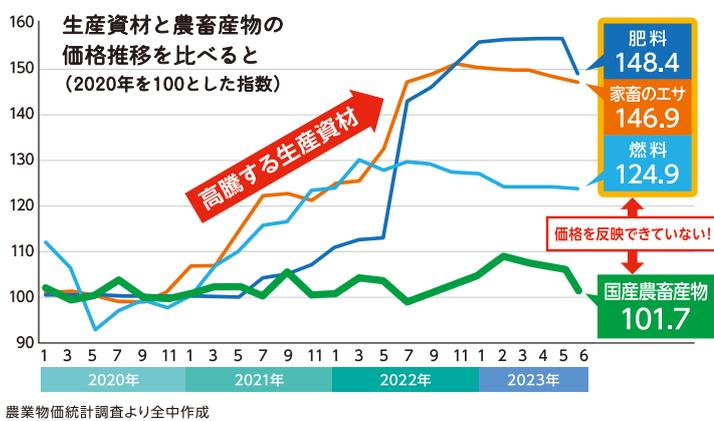
消費者が「国産」を選ぶ理由



日本政策金融公庫・消費者動向調査(令和5年1月)よりJA全中作成  
食料品を購入する時に国産品かどうかを「気にかける」理由(複数回答、2つまで)

生産資材価格が上がっている一方で、「国産」の農畜産物価格は横ばい。

農業の現場では、肥料、家畜のエサ、燃料などの生産にかかせない資材や、流通コストが高騰を続けています。一方で、それらの増加分が、農畜産物の価格に適正に反映できておらず、生産者は大変な苦境に立たされています。今、私たちにできることは、「国産」を食べて応援することではないでしょうか。



農作物価格統計調査より全中作成

そんななか、生産者は挑戦を  
続けています。

生産者・JAグループは、消費者ニーズに答えながら、ドローンなどの新技術の導入や、化学肥料・農薬の利用量削減など、生産コストを低減する取り組みを進めています。

適正な価格形成を実現するため、法律の制定に向けた検討が開始。

生産資材や流通コストの適正な価格転嫁は、私たちが食べ物を食べ続けるために必要なことです。これは日本だけの課題ではありません。フランスでは自動的にコストの変動分を価格転嫁できる

法律がつくられました。日本でも今、「農政の憲法」といわれる「食料・農業・農村基本法」の見直しが進められており、適正な価格形成に向けた法律の制定を行うことが政府より示されました。

資材・流通コストの  
適正な価格転嫁

「食」と「農」の  
持続のために必要

適正な価格形成の  
ための法律制定へ



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

# 子どもたちの食の未来のために。

## 「国消国産」を進めよう。

おいしくて安全・安心な日本の「食」を、いつまでも食べたい。それを実現するのが、「国消国産」です。これは「国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する」という考え方です。もっと「国産」を食べれば、もっと「国産」が増えていきます。食料品売場で「国産」を選ぶ。外食でも「国産」食材を使っているお店を選ぶ。現在の日本の食料自給率は38%、およそ6割を輸入に頼っています。私たちの身近な行動が、「国産」を押し上げる力となって、日本の農業を元気にしていきます。

### 「国消国産」の実践は、SDGsにも貢献！

海外で生産されたものを日本で食べるには、船や飛行機を使って、長距離輸送をするため、たくさんのCO<sub>2</sub>が排出されます。でも、国内、特に住んでいる場所から近いところで生産されたものを食べると、CO<sub>2</sub>の排出量を少なくすることができます。つまり、「国消国産」は、日本の農業を応援するだけでなく、SDGsの実現にも貢献できるということです。



国民が必要として消費する食料は

できるだけその国で生産する



#### 住んでいる場所の近くで生産されたものを食べる場合



#### 海外で生産されたものを食べる場合



さあ、「国消国産」を実践しよう！

## 「国産」を食べて応援キャンペーン実施中

食べて応援  
その1

JA直売所に3回来店して  
スタンプをGet!

47都道府県とおきの  
3,000円相当の農畜産物・加工品が  
合計14,100名様に当たります!

期間 2023年10月1日～11月30日

地域の新鮮でおいしい  
野菜や果物などが並ぶ  
全国約1,700店舗の  
JA直売所に行こう!

※一部実施していないJA直売所もあります。

詳しくはこちら



<https://www.asahi.com/ads/nogizaka46ja/kokusyokokusancp23/>

※9月19日からご覧いただけます。

食べて応援  
その2

おいしい秋を、  
お得に。

今がチャンス!  
送料をJAグループが  
負担します!

お客様の  
送料負担なし

期間 2023年10月1日～11月末日

※規定数に達した場合、早く終了することがあります。

JAタウンには、おいしい「国産」がいっぱい



おいしい日本と暮らそう  
JAタウン

JA全農の産地直送通販サイト

ご注文はこちら



<https://www.ja-town.com/shop/e/ekokusho/>

※10月1日からご覧いただけます。

### 県産業技術センターの各研究所のイベントにJAバンク青森のPRブースを出展

農林中央金庫青森支店は、9月6、7日に黒石市の青森県産業技術センター農林総合研究所、りんご研究所の「参観デー」に、また、9月8日に六戸町の野菜研究所の「公開デー」に、各会場近隣のJAと合同で、JAバンク青森の農業資金をPRするブースを出展した。

当ブースでは、農業資金に関するアンケートを実施し、ご記入いただいた方全員に農作業用手袋をプレゼントするとともに、条件次第で借入後5年間の金利負担が0円になる農業近代化資金をはじめ、JAが取り扱う各種農業資金をPRした。

イベントには、関連団体や企業なども数多く出展し、農業資材や農業機械の展示・実演のほか、試食や各種相談コーナーなども設けられ、各会場は多くの来場者でにぎわった。当ブースには3会場合わせて600人を超える来場者が訪れた。



▲りんご研究所内のブースで来場者に説明する職員

### 農林中央金庫青森支店で機構改正を実施

農林中央金庫青森支店は、「JAバンク青森中期戦略（2022～2024年度）」の着実な実践に向けて、より効果的な業務運営の実現を目的に、「農業」「くらし・地域」ごとのJA担当窓口の明確化、相談機能強化等を柱に10月1日付で機構改正を行った。

主な改正点は、次のとおり。

- ① 「農業」領域の一元化・ワンストップ化 ⇒ 農業融資専担部署「担い手金融班」の新設（JA貸出推進班統合）
- ② JAリテール商品企画体制強化 ⇒ 企画専担部署「JAリテール企画班」の新設（JAリテール推進班廃止）
- ③ JAバンク総括班へJA推進窓口・実践を一元化
- ④ 農業、指導相談、システム領域の効率運営による全体人員配置の見直し

現行		2023/10/1以降	
	【主な業務】		
リテール	JAバンク増援班	部門縦割（県内協議）個別対応	～JA推進窓口・実践の一元化～ ▶ 部門縦割（県内協議、個別対応） ▶ JA地区（リテール推進班から移管） ▶ バックログ推進（個店指導会別）、営業統廃、貸出強化（JA貸出推進班から移管）
	JA貸出推進班	農業融資企画・実践 バックログ企画・実践	～「地域」「くらし」領域の一元化～ ▶ メンバ化施策（カード、IB、投信）JA地区担 ▶ バックログ企画（JA貸出推進班から移管）
	JAリテール推進班	メイン化施策（カード、IB、投信）JA地区担	JA指導相談班
	JA指導相談班	手続、マニュアル、体制整備 研修（アカデミー）、国庫金等	▶ 手続、マニュアル、体制整備 ▶ 研修（アカデミー）、国庫金等
	JAシステム企画班	JASTEMSシステム 事務効率化、店舗統廃合	JAシステム企画班
			▶ JASTEMSシステム ▶ 事務効率化、店舗統廃合
会長農展	営業第一班	公庫受託窓口、管理・回収 営業事務、公庫事務	担い手金融班
	営業第二班	金庫力（一融資） 水産（マルバンク）、森林 対応	～「農業」領域の一元化～ ▶ 農業融資企画・推進、担い手金融（貸出推進班から移管） ▶ 公庫受託窓口（営業第一班から移管）
	CS班	物務、系統決済、窓口	営業第一班
			～事務の専担部署～ ▶ 管理・回収、営業事務、公庫事務
			営業第二班
			▶ 部門縦割（店舗創設案件、アカデミー、輸出） ▶ 金庫力（一融資） ▶ 森林対応
			CS班
			～事務効率化PTの立ち上げ～ 物務、系統決済、窓口

### 行事（10/10～11/10）

#### 農林中央金庫

- 10月
- 10日 青森県JA信用担当課長会議（ウェブ会議）
  - 10日 2023年度第2回証券外務員資格試験・内部管理責任者資格試験（県農協会館）
  - 11・12日 統一事務手続研修（貯金編）（貸出編）（ウェブ会議）
  - 17日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（ウェブ会議）
  - 18～19日 ライフイベントセールスリーダー養成講座（第3回）（県農協会館）
  - 22日 銀行業務検定試験／コンプライアンスオフィサー認定試験（各会場）
  - 24～25日 信用事業マネジメント実務強化研修（県農協会館）

#### 11月

- 8～9日 相続相談対応研修（ウェブ会議）
- 9日 青森県JA信用担当課長会議（県農協会館）

#### 農協電算センター

- 11月
- 7日 定時取締役会（県農協会館）
  - 7日 監査役協議会（県農協会館）

## JA米穀担当部長および担当者合同会議

JA全農あおもりは、8月30日、青森市の県農協会館で「JA米穀担当部長および担当者合同会議」を開き、令和5年産米の集荷対策を協議した。その中で、集荷目標数量を2044千俵（約12万ト）とした。

家庭需要は停滞しているものの、業務用需要の回復により民間在庫は減少傾向にあるなど、米の需給は改善傾向にあるとみられる。だが、生産コストの増高は継続しており、生産現場は依然厳しい状況にあることからJAグループとして連携し、生産者の手取り安定化に向けて、適正な価格形成を訴求していく。

目標達成に向けて、県産米の評価向上や定着化など産地間競争に勝ち抜くため産地の特色を最大限活かしながら県産米の売り場確保に努める。

全農あおもりの長内敏也米穀部長は「本年度は気象の影響による刈り取り早期化、新品種『はれわたり』のデビュー、インボイス制度の開始など情勢がめまぐるしく変化している。農業経営の安定化を軸に昨年の取り組みを強化するとともに新たな施策を構築する」と述べた。

また、同日は「第8回青森県JA農産物検査員鑑定競技大会（団体の部）」で好成績を収めたJAつがるにしきたへの表彰を行った。



▲開会のあいさつをする長内部長

## 県内初の上級オペレーター福士さんを表彰

JA全農あおもりは、8月30日、青森市の県農協会館で、県内で初めて「上級オペレーター」に認定されたJA津軽みらいの福士直樹さんに、認定証の副賞として記念品を授与した。

上級オペレーターは施設に関する十分な技術・知識を持ち、模範となる者として「全国



▲表彰を受けた福士さん

カントリーエレベーター協議会」が2年に1度、認定するオペレーターであり、その認定を通じて、他のオペレーターの意識・技術を高めるとともに、カントリーエレベーターの運営管理の適切化および品質事故防止の強化につながることが期待されている。

合格した福士さんは「今後も地域と生産者のため、カントリーエレベーターを適切に運営できるよう努めたい」と決意を述べた。

今回の認定により、上級オペレーターは全国で累計118人（21道県）となった。

## 「やさいの日」JAフェア

JA全農あおもりは8月30、31日の2日間、県内のスーパーマーケット「カブセンター」「ベニーマート」など計11店舗で、やさいの日に係わる販促イベント「『やさいの日』JAフェア」を開いた。これは『やさいの日』の認知度向上や、地産地消を呼びかけるために毎年開いているもの。

店頭ではのぼりやポスターを掲示したほか、県産品を使用したレシピを掲載したリーフレット等を配布した。また、店舗内ではハウス食品(株)とのコラボしたオリジナルカレー「青森のうまいもの彩り野菜のキーマカレー」の試食を実施するなどし、県産やさいの消費を呼びかけた。

カブセンター大野店の武田徳店長は「今回のフェアをきっかけに、野菜を食べることや県産品を選ぶことの重要性をあらためて感じてもらえたら」と話した。



▲やさいを購入する客

## 第17回青森県乳用牛共進会

JA全農あおもりは9月2日、乳用牛の改良と生産性向上を図るため、七戸町の県家畜市場で「第17回青森県乳用牛共進会」を開いた。

32頭のホルスタイン種が出品され、育成牛、未経産牛、経産牛を月齢ごとに8部門に分けて体格や骨格・乳房の形状などを競った。

審査によって、各類のチャンピオン牛の中から、グランドチャンピオンが選出された。未経

産の部では第1類より(株)サウザンドリーフ(JAおいらせ)の出品牛がグランドチャンピオンに選ばれた。経産の部からは第8類より阿部亨さん(JAゆうき青森)の出品牛がグランドチャンピオンと名誉賞に選ばれた。

また、団体優勝にはJAおいらせが選ばれた。最高位賞以外の各賞チャンピオン出品者は次の通り(カッコ内はJA名・敬称略)  
 ▽第2類=(株)サウザンドリーフ(おいらせ)  
 ▽第3類=橋本拓也(ゆうき青森)  
 ▽第4類=阿部亨(ゆうき青森)  
 ▽第5類=(株)サウザンドリーフ(おいらせ)  
 ▽第6類=(株)サウザンドリーフ(おいらせ)  
 ▽第7類=(株)サウザンドリーフ(おいらせ)



▲経産の部でグランドチャンピオン、名誉賞に輝いた阿部さんの牛

## にんにく共進会

JA全農あおもりは9月7日、六戸町の青森県産業技術センター野菜研究所で「令和5年度青森県にんにく共進会」の審査を行った。

最優秀賞には佐藤茂寿さん(JA十和田おいらせ)、優秀賞には工藤宰さん(JAつがるにしきた)がそれぞれ選ばれた。佐藤さんには農林水産大臣賞、工藤さんには県知事賞が授与される。

共進会は、日本一のにんにく産地の維持・拡大に向けて、栽培技術のレベルアップと高品質安定生産の推進を目的として毎年開催しているもの。

今年度は県内8JAから102点のにんにくが出品され、審査員らがサイズや形状、乾燥や表皮の状態などの項目を基準に審査を行った。

表彰式は6年1月17日にJA十和田おいらせ本店にて開催予定。



▲にんにくの審査を行う審査員ら

優良賞の入賞者は次の通り(カッコ内はJA名・順不同・敬称略)。

◇優良賞▽東昇(十和田おいらせ)▽立崎洋史(同)▽久田稔(おいらせ)▽木野幸助(同)▽金澤幹雄(八戸)

## JAつがるにしきた初検査

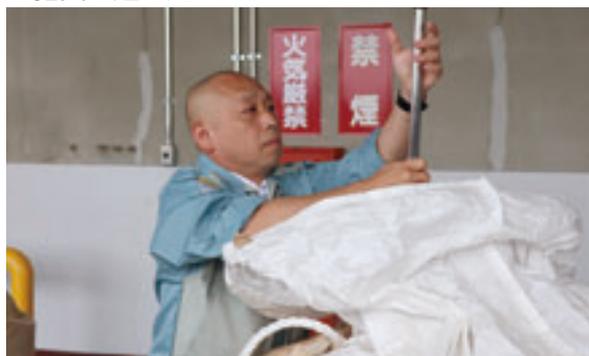
青森県内の10JAでは9月9日のJA津軽みらいを皮切りに米の検査が始まった。11日はつがる市の津軽中央共同倉庫でJAつがるにしきたが「青天の霹靂」36俵(1俵60キロ、約2.16トン)の初検査を行い、未熟・胴割粒が平年に比べわずかに多く混入していたものの全量1等となった。

また、12日にはJA十和田おいらせの深持倉庫で初検査が行われ「まっしぐら」42俵について胴割粒の発生があったものの規格内により全量1等となった。

令和5年産米は青森県主要稲作地帯の8月の平均気温が27.6度と平年より4.5度も高く、高温による作柄への影響が懸念される。既に刈り取った生産者からは白未熟粒や胴割粒などの割合が多いと不安の声が上がっている。

全農あおもりは、JAの検査現場を巡回し米を刈り取った後の乾燥・調製の留意点を再度確認するほか、未熟粒過多による落等を防ぐため、色選機の適宜調整を行うよう注意喚起を促す。また、検査員同士で目ぞろいを行い、安定した品質の米出荷を目指す。

全農あおもりの長内敏也米穀部長は、「検査員にはいままで培った経験をもとに、検査にあたってはしっかり判断して適正な検査を行ってもらいたい。今後、検査・集荷が進むにつれて猛暑の影響が見えてくると思うが、預けてもらった米は少しでも有利販売に繋がるよう努力していく。また、生産者の立場を考え、様々な施策を講じたい。」と抱負を述べた。



▲米の検査を行う担当者

### 行事(10/10~11/10)

10月	
19日	高圧ガス第二種販売主任者試験 対策講習会(県農協会館)
11月	
7日	運営委員会(県農協会館)

## JA共済ヘルスアップ講座の開催

JA共済連青森は8月30日に南田温泉アップランド（平川市）で、9月13日にきざん三沢（三沢市）でJA共済ヘルスアップ講座を開き、JAの組合員とその家族、地域住民総勢約300名（両会場合計）が参加した。JA共済がJA女性組織の健康づくりのために開発した「JA共済レインボー体操」を体験し、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授の中路重之氏による「短命県返上から学ぶ健康」と題した講演とヘルスチェックが行われた。

昼には青森県産食材をふんだんに使用した彩り豊かな「JA健康寿命100歳弁当」を提供した。午後は、日本整形外科学会理事・青森県立中央病院医療管理監・整形外科統括部長・日本整形外科学会専門医・同脊椎脊髄病医・日本リハビリテーション学会認定臨床医の伊藤淳二氏による「ロコモと骨粗鬆症の対策と認知症」と題した講演とヘルスチェックが行われた。

講演終了後には落語家の林家正蔵師匠による落語で参加者全員が元気な笑いにあふれていた。



▲中路重之特任教授による健康講座



▲レインボー体操をする参加者

## JA共済交通安全フェスティバルの開催

JA共済連青森は青森県警察本部と一般財団法人青森県交通安全協会と連携して、16日道の駅なみおか「アップルヒル」、19日JA十和田おいらせファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」で「JA共済交通安全フェスティバル」を開催した。

地域住民の交通安全思想の啓蒙と交通事故の未然防止を呼びかけることを目的としている。

来場者に交通安全対策グッズ等（交通安全啓発チラシ、ミニライト、自転車用反射材等）を配布し、交通事故の未然防止を呼び掛けた。

会場には、パトカー・白バイの展示と記念撮影、JA共済ドライビングシミュレーターによる安全運転診断、青森県警のふれあい号による運転・歩行能力診断、服装から夜間と日中の見えやすさの違いを確認する「見えチェック」などを行った。子供からお年寄りまで多くの人が楽しみながら交通安全について学び大盛況に終わった。



▲白バイに乗って記念撮影をする来場者（アップルヒル）



▲ふれあい号を体験する来場者（かだあ〜れ）

## 共済担当部課長会議の開催

JA共済連青森は、9月22日に青森市の農協会館で「共済担当部課長会議」を開催した。

開会に際し、沼田本部長は今後目標達成に向けた総仕上げの時期を迎えるため、県下・各JAの取組みを共有し、10JAと県本部が「OneTeam」となり早期目標達成に向けて尽力していただきたいと述べた。

本会議では、①令和5年度第2四半期の取組み状況について、②令和5年度JA普及推進目標達成に向けた下半期の取組みについて、③令和5年10月実施予定の一時払仕組みにかかる共済掛金率の変更内容について、④共栄火災の取組み状況と今後の取組みについて説明および協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

### 行事（10/10～11/10）

#### 10月

- 12日 建物共済JA審査員有資格者研修会【1回目】（オンライン）
- 18日 JA自動車契約担当審査員有資格者研修会【1回目】（オンライン）
- 25日 書道・交通安全ポスターコンクール表彰式（県農協会館）

#### 11月

- 7日 運営委員会（県農協会館）
- 9日 生命共済JA審査員有資格者研修会【2回目】（オンライン）

令和5年9月1日～10月31日は「令和5年秋の農作業安全確認運動」期間です

## 徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策

9月1日から令和5年秋の農作業安全確認運動が始まっています。

乗用型トラクターなど農業機械の転落・転倒による死亡事故が多く発生しているため、ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践、危険箇所の改善を行い、農業機械作業の事故防止に向けた運動に是非ご協力ください。

### 【農作業死亡事故の発生状況】

令和3年における全国の農作業事故死亡者数は、242人となっています。

事故原因別では、乗用型トラクターによる事故が58名(24%)で、そのうち「転落・転倒」による死亡が40人(69%)で最多となっています。

### 【青森県の事故死亡者数は全国7番目】

令和3年に発生した都道府県別農作業事故死亡者数では、青森県は8名で、長野県、北海道、岩手県等に続いて、全国7番目に多い死亡者数となっています。

### 青森県の農作業事故死亡者数の推移

	H29	H30	R元	R2	R3
青森県	10	6	11	14	8

### 【秋の運動の展開方針】

#### （重点推進テーマに基づいた取組）

#### ① 農業者への声かけ運動

農業指導、講習会等の直接的な声かけだけでなく、SNS、ラジオ放送、有線放送、広報誌等の媒体を活用して農業機械の転落・転倒対策の実践を呼びかけています。

#### ② 研修を通じた転落・転倒対策の徹底

「農作業安全に関する指導者」等による、農業機械の転落・転倒対策に係るテキストを使用した研修の企画・開催を推進しています。



農作業死亡事故の発生状況（令和3年）



### （継続的な取組）

① 熱中症による事故の多発を踏まえ、農業者に直接注意喚起できるMAFFアプリを活用した「熱中症警戒アラート」の利用を促進しています。

② 農作業事故の防止に向けて農業者が具体的な対策を講じられるよう、「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範」やGAPの周知・実践の働きかけを行っています。

③ そのほか、周知活動として、転落・転倒事故への注意を喚起する「農作業安全ステッカー」を作成・配付しています。



家族や地域みんなの「声かけ」で、農作業事故ゼロを目指しましょう！

# 実践 農業者支援

## 外国人材の活用に関する制度改革

### — 特定技能2号に農業分野も追加拡大 —

外国人材の活用に関する制度について、2023年6月9日に閣議決定された法務・関係省令等の改正が8月31日に運用開始されたことから、その改正内容について紹介する。

#### 1. 外国人材の活用に関する制度

外国人材の活用に関する制度には、「技能実習」と「特定技能」の二つの制度がある。このうち、「特定技能」は2019年4月1日に施行された在留資格制度で、日本国内において人手不足が深刻化する業種を「特定技能1号」「特定技能2号」と区別して外国人受入を可能とした。農業分野については「特定技能1号」に区分されていたが、今回の改正により「特定技能2号」にも追加拡大された。

この改正により、特定技能2号の技能試験に合格すると、これまで5年だった在留期限が無くなり、習得した技能で長期間活躍できるほか、家族の帯同も可能になるためメンタル面の安定が期待できる。

#### <特定技能1号と2号の違い>

項目	特定技能1号	特定技能2号
在留期間	1年・6カ月・4カ月ごとの更新（通算5年まで）	3年・1年・6カ月ごとの更新（更新の上限なし）
技能水準	相当程度の知識又は経験を必要とする技能	熟練した技能（各分野の技能試験で確認）
外国人支援	必須。支援計画の策定実施は義務	支援計画の策定実施は不要
家族の帯同	不可	可能要件を満たせば可能（配偶者・子）
日本語能力水準試験の有無	有	無
試験の実施状況	国内外で実施中（2023年4月現在）	2023年に新設予定

#### 2. 特定技能2号の状況等

2022年度の特定技能による在留外国人の数は、「特定技能1号」が13万人以上に対して「特定技能2号」はわずか8人（建設分野）に留まっている。これは、「特定技能2号」の業務（分野）が少なかったことに加え、施行（2019年）されて間もないため、国内外で資格試験の準備をする期間が少なかったことや新型コロナウイルスの影響により外国人労働者が減少したことが主な原因と考えられる。

「特定技能2号」の資格を取得するためには、現時点では1号→2号に移行する方法しかなく、「特定技能1号」として長年の実務経験で身につけた技能により、①高度で専門的・技術的な業務ができる②監督者として業務を統括しながら熟練した技能で業務ができるといった高い水準を満たす必要がある。

なお、この「高度な技能水準」は、「実務経験」と「試験」で確認するため、事業者は求めに応じ実務経験証明書を提出することになる。（「試験」については、今後、各関係省庁が試験実施要領を示す予定）

#### 3. 特定技能の受入れ機関（企業）の対応

特定技能の受入れ機関（企業）自体も対応が必要となる。特定技能外国人を雇う企業に賃金規程がある場合、同程度の経験を有し、同業務に従事する日本人従業員がその賃金規程に沿って支払われている給料と同等以上の給料が特定技能外国人の給料として設定する必要がある。

例えば、職歴4年の日本人従業員の月給が20万円である場合、「特定技能1号」4年→「技能実習2号」資格取得者である外国人の月給は20万円以上とする必要がある。

賞与・手当・昇格についても同様で常に「日本人と同等か、それ以上」の基準に対応する必要がある。

#### 4. まとめ

特定技能による在留外国人の数は、新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴う入国制限の緩和や今回の制度改革により特定技能2号が増加することが予想される。今後、「特定技能1号」を受け入れる際は、2号への移行を見据えた採用や人材育成がポイントになっていくと考えられる。

なお、技能実習制度の廃止を含めた新制度への移行が政府の有識者会議で提案されていることから、外国人労働力の受入を検討する際にはこれらの動きにも注視する必要がある。

（中央会 農業対策部）

# 経営の窓口

## リスク情報戦略の実践について

### 1. はじめに

リスク情報戦略については、令和4年度でリスクを洗い出し、令和5年度からモニタリングを開始しているが、その中でも、どの事業においても守りのガバナンスとして検出されたリスクとして、「減損リスク」（それぞれの事業の収益性低下による減損）があると思われる。期末の見通しも具体化してくる時期に入ることから、今回は減損リスクにおける指標管理の具体的な取組み例について説明したい。

### 2. リスク管理の流れ（概要）

各部署でのリスクの洗い出しと指標設定→リスク管理の会議体でのモニタリング→指標を下回った項目の理事会報告の検討→理事会において対策を検討。

### 3. 減損リスクの主な内容

本県における兆候判定の実務では、次の2つが主な判定項目として扱われている。

- (1) 営業活動から生ずる損益又はキャッシュ・フローが継続してマイナスの場合
- (2) 市場価格の著しい下落の場合

### 4. モニタリング方法

- (1) 営業活動から生ずる損益又はキャッシュ・フローが継続してマイナスの場合

- ① モニタリング対象物

「減損兆候判定表」

- ② モニタリング指標

「各資産グループの共通管理費配賦後の事業利益が〇〇万円以下」

このとき、共用資産に位置付けられている部署の指標については、個別具体的な取り組み指標を設定する必要がある。

(例)「〇〇の集荷数量〇〇 t 以下」「〇〇の販売単価〇〇円/kg 以下」など。

- ③ 兆候判定表の作成

実績検討時点における資産グループごとの期末見通しを、兆候判定表の事業収益、事業費用に入力する。

このとき、事業外収益、費用については、奨励金等の基準並びに残高等が前期と変わらない見通しであれば、前期の数値を使用する。

- ④ 分析

③の結果、指標以下になった資産または資産グループについて、収益性低下の要因をリスク管理会議で議論し、理事会報告資料を作成する。

このときの分析資料としては、中期計画策定時に根拠資料として作成した個別戦略シートを使用し中期計画の進捗管理と合わせて検討するのが合理的。

- (2) 市場価格の著しい下落

- ① モニタリング対象物

#### 「場所別減損兆候判定表」

令和4年度から資産または資産グループ内を細分化した場所別兆候判定を行っているためその資料を使用する。

#### ② モニタリング指標

(例)「下落率が40%以上」

近年、土地の固定資産税評価額が下落傾向にあることから、時価と簿価とを比較した際の下落率が50%になる前に対策を講じることを目的として設定する。

#### ③ 兆候判定表の作成

今年の固定資産税評価額をもとに場所別減損兆候判定表に時価を入力する。

#### ④ 分析

③の結果、指標以下になった資産または資産グループについて、認識判定表を作成し減損損失を認識するか判定を行う。

理事会報告は、兆候ありのタイミングで報告し、対象資産の今後の収益性及び用途についても議論することが効果的。

## 5. 事業計画との整合性

単年度事業計画は、中期計画を達成するための単年度ごとの実行計画の位置づけとなるが、事業計画を策定する際には、計画値での減損兆候判定表を作成することで、より実践的な計画となる。

リスク情報戦略においては、持続可能な収益性・将来にわたる健全性確保を目的とした攻めのガバナンスと、経営に大きな影響を与える財務リスク等の守りのガバナンス機能をモニタリングすることが求められている。

このことから、「減損リスク」をモニタリングすることにより、2つのガバナンスを管理することとなる。

## 6. さいごに

各JAにおいて、リスクの洗い出しを行い管理していると思われるが、本会としては、リスク情報戦略および経営基盤強化の一助となるよう、実務作業への取組みを支援していきたい。

(中央会 経営対策部)



# 組織農政通信

## 本会における食農教育の取組み

今回は、地域の多様な組織と連携して、次世代と農業・地域をつなげるため、地域の食や料理、農業・農村の伝統文化や歴史等、幅広い地域学習を含めた食農教育について、本会の取組みを紹介する。

### 【第29回 J A青森県大会での決議内容】

本県における食農教育の取組みについては、第29回 J A青森県大会において、重点目標である「2. 豊かな暮らしの実現」の中で掲げる「J A暮らしの活動の推進と生活インフラ機能の発揮」として決議されている。

その内容は、J Aと連合会は、地場産を中心とする国内農畜産物の消費拡大、また組合員・地域住民の健全な食生活の実現に向けて、各団体と連携し、農業が果たす役割やその価値等を伝える食農教育に取組むとしている。

その取組みにあたっては、情報発信も重要であることから、広報分野において、「食」への関心が高い子育て世代層と次代を担う若年層をターゲットとした情報発信を強化することとしている。

### 【本会における食農教育の取組みと情報発信】

#### 1. 食農教育の取組み

食農教育を進めるにあたり、次の階層をターゲットとして定め、取組みを進めている。

##### (1) 小中学生向け

農作業体験やお米に関する作文や図画等の作品制作を通じ、農業を身近に感じてもらうことを目的に、県内小学校5年生を対象にした「バケツ稲づくり」の取組みや「ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール」を実施し、稲作をはじめとする農業の重要性を啓蒙している。

また、農林水産業の果たす役割や食料の重要性の理解促進のため、小学校5年生を対象にした、社会科副読本「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」を作成している。

##### (2) 高校生向け

管内に農業高校が設立されている J Aと連携し、農業高校生に対し、J A事業や本県農業への理解を深めるため、「農業高校への出前授業」や「J A施設見学ツアー」を実施することで、「食」「農」「協同組合」に関する理解醸成を図っている。

なお、今年度は、「J A十和田おいらせと三本木農業恵拓高校」、「J A津軽みらいと柏木農業高校」、「J A八戸と名久井農業高校」(写真) が連携して取組んでいる。



三戸グリーンセンターを見学する生徒

##### (3) 子育て世代向け

幼児やその母親への「食」「農」理解促進として、紙芝居アニメ等が収録されている幼児向けウェブコンテンツ「J Aめぐりタウン」や無料知育アプリ「ごっこランド」を紹介している。

また、J A全中と連携し、「食」を切り口とした情報発信として、国産農畜産物を使用したレシピを募集し、その素材データを発信している。

#### 2. 食農理解のための情報発信

食農教育以外にも、「食」「農」「協同組合」や再生産可能な価格形成の実現に向けた消費者等への理解醸成のため、東奥日報社との連携による「女子マル」ツアーを今年度は、J A十和田おいらせ管内、J A相馬村管内において開催した。

また、10月からは「国消国産」への理解促進運動として、T V C MやJ R駅構内でのデジタルサイネージを活用した周知活動や県産農畜産物、国消国産 P R資材を配布するイベント「みんなで知ろう！国消国産！」を開催することとしている。

さらに、11月には、大農林水産祭（J Aふるさと市）においても周知活動を展開していく。

(中央会 農業対策部)

## 県知事と初の対話集会

宮下宗一郎青森県知事が政策に掲げる「県民対話集会」が8月下旬、つがる市柏の古坂朝和さんのリンゴ園地で、初めて行われた。宮下県知事が各業種の団体や職場などに出向いて県民の声を直接聞き、政策のヒントを得て実現していくことが目的である。

同集会は宮下県知事とJ A つがるにしきたのリンゴ生産者11人、同J A 山中満春組合長が車座の形で行われた。生産者は肥料や燃料の高騰を挙げ、「自分の力だけでは限界がある。ライフプラン設計を専門的に行うプランナーのような存在があってもよいのでは」と提案した。また、6次産業化の進め方が分からないといった声や、農業が気軽に始められる環境づくりを求める意見も出た。

宮下県知事は「現場での直接の声は、非常に心に響いた。これからも皆さんと対話の機会を作っていきたい」と述べた。



生産者と対話する宮下県知事（中）

## 4年ぶり地元賑わう 「ふれあい感謝祭」

J A つがるにしきたつがる統括支店管内の農協まつり「ふれあい感謝祭」が9月3日、つがる市の稲垣交流センターで4年ぶりに開かれた。J A 自己改革の一環として、組合員や市民との絆を深めるために年1回開き、約300人の来場者がイベントを楽しんだ。

五所川原第一高等学校の津軽三味線部がねぶた囃子の演奏でオープニングを飾り、迫力と一体感ある音色が響き渡った。屋内イベントでは、小学生のバレーボール大会や津軽伝統の金田豆蔵人形劇、カラオケのど自慢、お楽しみ抽選会などを開いた。また、射的やフリースローゲームのコーナーでは、子供たちがお目当ての景品を手に入れて飛び跳ねて喜ぶ場面も見られ、仮想現実（VR）動画で農作業事故を疑似体験するコーナーや、ドローンの展示も行った。

新鮮野菜の即売会では、約30種類の野菜が100円から200円の手頃な価格で店頭に並び、多くの来場者で賑わった。

新鮮野菜の即売会では、約30種類の野菜が100円から200円の手頃な価格で店頭に並び、多くの来場者で賑わった。



オープニングの様子



バレーボール大会の様子



フリースローゲームの様子



# 輝き

JA全農あおもり  
米穀部 米穀流通課  
まつた しゅうへい  
松田 秀平 さん

●プロフィール  
2022年4月から勤務 平川市出身 24歳

## 働くきっかけは？

親が農家で農業自体に興味があり、青森県の主産業である農業の発展に貢献したいと思い志望しました。

## 業務内容を教えてください。

主に東青・県南地区農協の推進業務をしております。

## 働いた感想は？

農協職員の方とやり取りすることが多いため、的確に情報を聞き出す、伝えることの難しさや重要性を実感しています。また、推進していく中で上司や同僚だけでなく、農協の方との報・連・相が大切だと感じたので、今後の業務でもより意識していきたいと思います。

## 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

事前準備をして業務にあたるよう心がけています。推進時に何を聞かれるのか想定しながら、資料の作成や推進内容の整理をしています。

## 特技・趣味は？

古着屋巡りが趣味です。気に入ったものがあれば買いますが、お店の人と古着の話をする 것도好きです。

## あなたが自慢できることは？

5年間、筋トレを続けていることです。体型を維持できているので、今後も続けていきたいです。

## 将来の夢は？

幅広く米穀について知識をつけて農協の方に頼りにされる推進担当になることです。

## 労組を中心に秋のクリーン作戦



事務所周辺の清掃を行う職員



JAおいらせ労働組合は9月14日、業務終了後にJA施設周辺のごみ拾いをするクリーン作戦を行った。地域貢献活動の一環として春と秋の年2回行っているこの活動は、9年前から継続して取組んでおり、持続可能な開発目標（SDGs）の11「住み続けられるまちづくりを」に繋がる取組み。

同組合以外に部課長も加わり、本店で約60人、六戸支店で約30人が駐車場や倉庫周辺のペットボトルやビニールなどのゴミを拾った。

同組合の野宮優輝委員長は「清掃活動は、仕事しやすい環境づくりにも繋がる、今後も継続していきたい」と話した。

## JA人の動き

○JA津軽みらい（令和5年9月28日付）  
代表理事常務（信用担当専任） 福原 峰人（新）



グランドチャンピオンを獲得したサンライズヒルRDCアツツウドカリン

六ヶ所村庄内地区で酪農業を営んでいる阿部亨さん（63）。両親が酪農家だった影響から高校生時代は酪農について学び、卒業後に家業を継いで就農した。現在は夫婦2人で酪農を営み、育成牛40頭と経産牛60頭の計100頭から1日当たり1500ℓの乳量を出荷している。

阿部さんは、今年7月に行われたJAゆうき青森畜産共進会でホルスタイン経産牛の部でグランドチャンピオンを、また8月に行われた、青森県乳用牛共進会でもグランドチャンピオンを獲得し、名誉賞として農水大臣賞が授与された。JAと青森県の畜産共進会でグランドチャンピオンに輝いたのは同じ牛。現在9歳で6産を経験しており乳房の垂れがなく、乳腺が数多くある牛。

新型コロナウイルス感染症の流行前はたくさんの共進会に参加してきた阿部さんは、「共進会という場は知識を高められる良いチャンスがあり、その場で出会った自分と同じ酪農家との交流が楽しいし、いい刺激になる」と話した。

今後は「世界情勢が大きく変化する中、経営は厳しいが、現状の頭数のまま個体乳量が増加する牛を育てていきたい」と語った。

## 後編 記集

やっと9月下旬から暑さが緩んできました。そして爽やかな秋がやってきました！

そこで、今回の写真は我が家の田んぼです。9月上旬で上が刈取り前、下が刈取り後の写真で、岩木山もバックに収めました。

春の種籾の選別から始まり、苗代作りから田植えをし、水管理を延々としましたが、稲刈りはあっという間に1日半で完了です。コンバインで曲がりくねった田んぼの稲を刈り取り、軽トラに載せたデッカイ袋＝フレコンバックでJAへ6回持っていきました。

来年も頑張るかとおためて心に思う自分がいたかな？

それでは皆様、「SEE YOU ON NOVEMBER!」（一）



## ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。